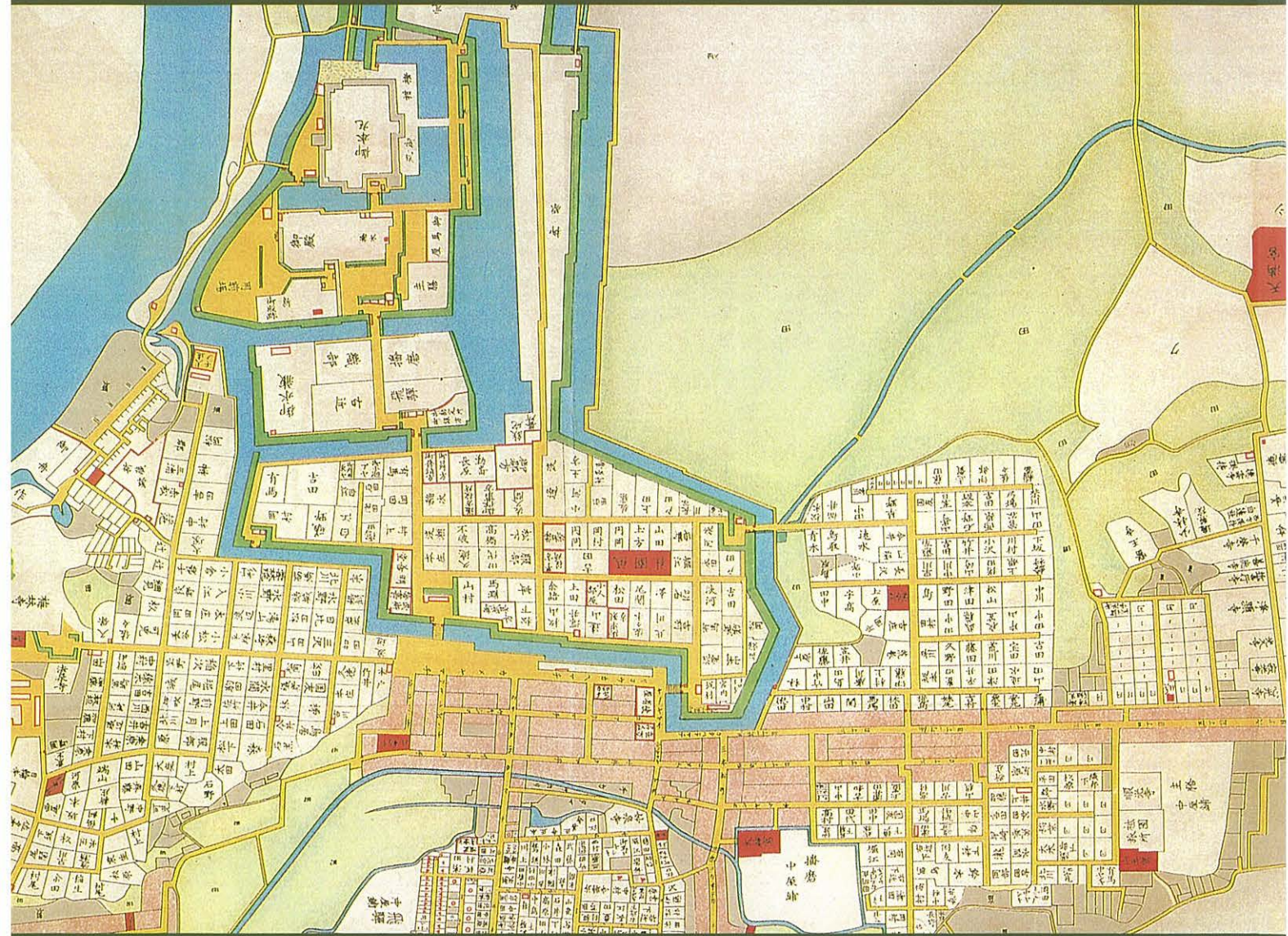


# 久留米城下町の建設と発掘調査



天保年間(1830~1844)久留米城下町

2006



## 久留米城下町関係年表

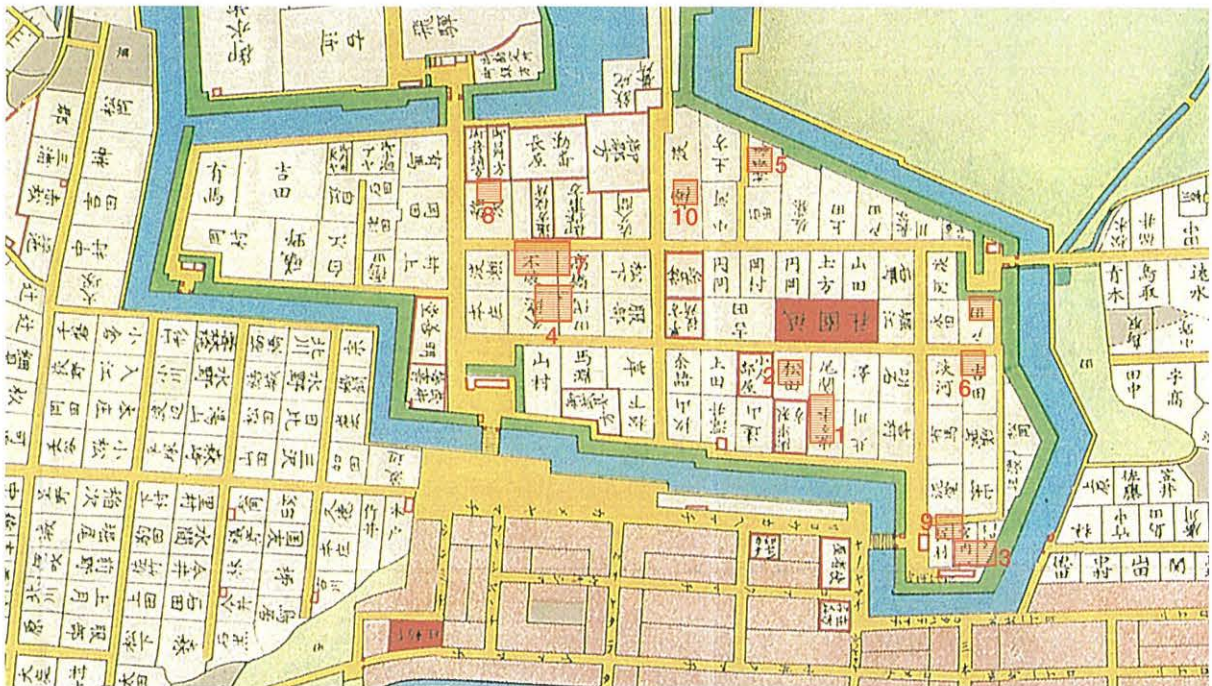
西 曆	年 号	で き ご と
1587	天正15	豊臣秀吉が九州を平定。毛利秀包が久留米城主となる。
1600	慶長 5	田中吉政が筑後国主になる。久留米城を改修し、次男則政を城主とする。城下町が整備される？
1621	元和 7	有馬豊氏が久留米藩主となる。 本格的な久留米城の大改造、寺町など城下町の整備がはじまる。
1622	8	新町（中町）できる。長町（通町）4丁目までできる。
1624	寛永 1	長町5丁目より東に家が建ち始める。
1631	8	加藤氏・黒田氏の協力を得て、久留米城の堀が完成。
1632	9	経隈（後に京隈）村に土屋敷できる。
1634	11	長町の5・6丁目まで家が建つ
1641	18	長町8丁目、紺屋町2丁目できる。京隈・櫛原土屋敷の建設が進む。
1642	19	長町が9丁目まで広がる。
1643	20	瀬ノ下に町屋ができる。
1644	正保 1	本丸を修築。
1645	2	洗切の町人を瀬ノ下へ移し、藩の水軍方の船頭や水主の屋敷とする。
1646	3	瀬ノ下浜町3丁目までできる。長町10丁目の屋敷割りが行われる。
1651	慶安 5	三本松より櫛原鷹匠小路までの堀（外堀）できる。
1655	明暦 1	久留米城京隈口付近の土橋や堀、土居ができる。
1664	寛文 4	大石口から通町京隈口まで家が立ち並ぶ。
1669	9	原古賀町3丁目より南に追々家が建つ。
1676	延宝 4	柳原の土屋敷を京隈の小松原（現、京町小学校付近）へ移す。
1696	元禄 9	城下町大火（白石火事）。城下町の大半が焼失。
1726	享保11	両替町北側、紺屋町2丁目、池町を延焼防止のため広場とし、住人を原古賀町6・7丁目や小頭町へ移す。
1745	延享 2	長町を通町と名称変更する。
1746	3	この頃に通外町（旧称、松原）建つ。
1863	文久 3	江戸定住の士・足軽とその家族約300名が久留米へ帰国。 翌年十二軒屋に新屋敷を建て移住させる。（江戸屋敷と呼ばれる）
1872	明治 5	久留米城の解体始まる。 御殿・家老屋敷・大手門はじめ諸門が解体され、跡地は払い下げられる。
1874	7	久留米城廃城。
1875	8	久留米城の土居を壊し、堀の大部分が埋め立てられる。

## 久留米城下町の建設と発掘調査

### 久留米城内(外郭遺跡)・侍屋敷の調査

久留米城は現在、本丸の石垣と堀の一部が残るのみとなっていますが、本来はその約20倍の規模を持ち、本丸のほかに、二ノ丸・三ノ丸・外郭を備えた大きな城でした。

久留米城内の発掘調査は、昭和34年に本丸の石組み溝が調査されていますが、その後は調査が行われず、本格的に発掘調査が開始されるのは、外堀の一部が調査された平成2年以後のこととなります。城内では、藩の上・中級武士の屋敷があった外郭で11地点の調査が行われ、屋敷境の溝や井戸、地下蔵などが見つかっています。



天保年間絵図の久留米城外郭部分と調査地点位置図

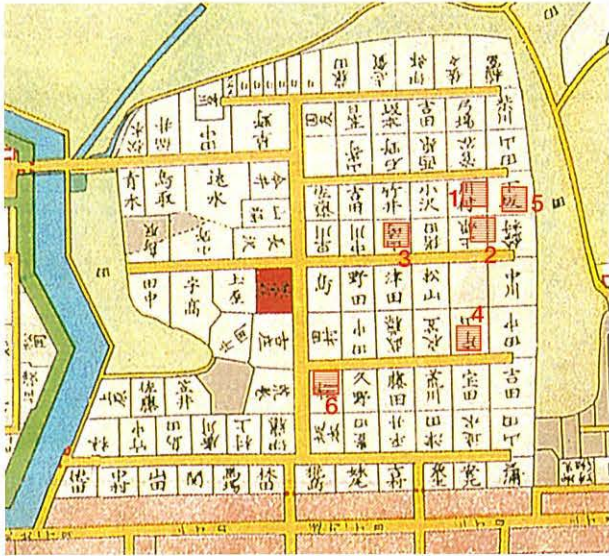


佐々木家の薬医門



石組み井戸





天保年間絵図の櫛原侍屋敷と調査地点

くし 原 侍 屋 敷  
櫛原侍屋敷

久留米城の東側に所在し、主に100~300石取りの中級武士の屋敷がありました。

ここでは8地点の調査が行われ、第3次調査では、古文書に記録がある「人が立って歩ける程の大きな湿抜きの溝」と考えられる深い溝が見つかりました。また、当時の最高級品である鍋島焼の皿が出土しています。



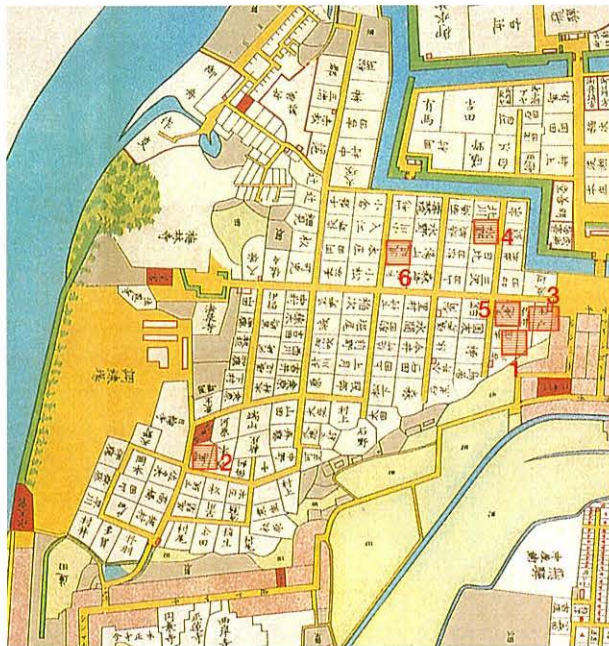
発見された湿抜き深堀溝



鍋島焼大根文皿

きょう 隈 侍 屋 敷  
京隈侍屋敷

久留米城の西側に所在する上・中級の侍屋敷で、5地点の調査が行われています。第3次調査では武家屋敷と町屋の境と考えられる溝が見つかり、それぞれ石の組み方が違うことがわかりました。

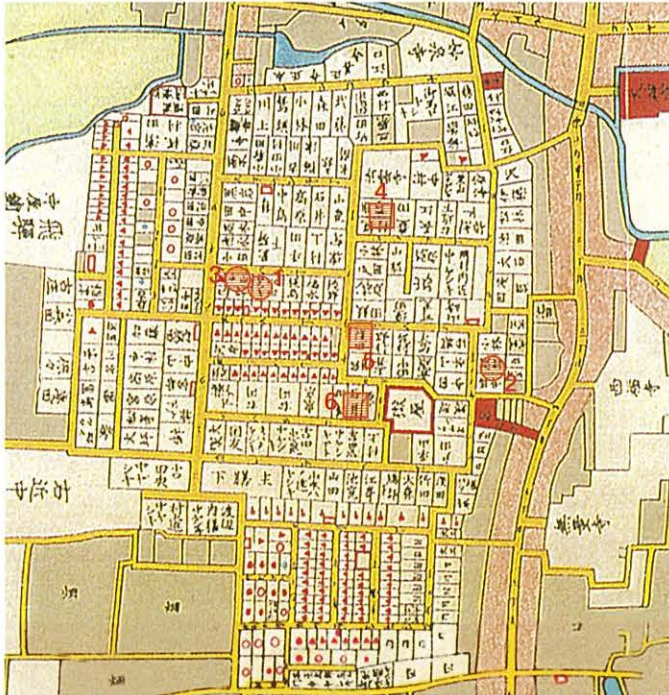


天保年間絵図の京隈侍屋敷と調査地点



武家屋敷と町屋の境の溝





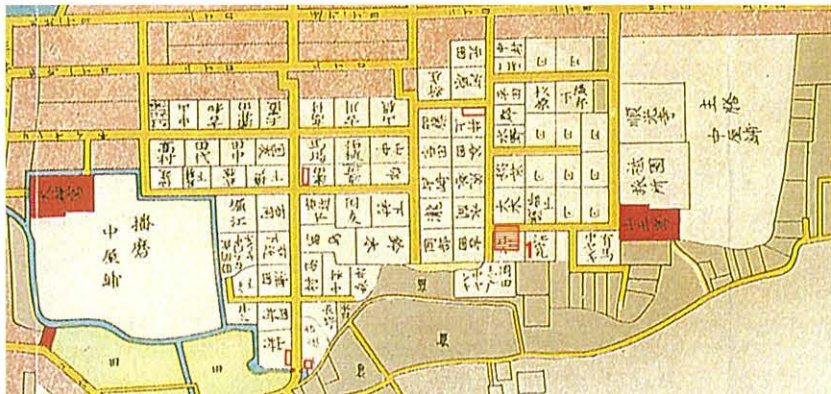
天保年間絵図の庄島侍屋敷と調査地点



金箔が塗られたお皿

しょうじまざむらいやしき  
**庄島侍屋敷**

中・下級武士の屋敷や職人の長屋が  
建ち並んでいた場所で、6地点を調査  
しています。穴蔵やごみ穴などが多数  
見つかり、第6次調査では金箔が塗ら  
れた皿が見つかりました。



天保年間絵図の十間屋敷侍屋敷と調査地点

じゅうもんけんやしきざむらいやしき  
**十間屋敷侍屋敷**

100~300石の中級武士の  
屋敷や上級武士の中屋敷など  
があった場所です。

発掘調査は1地点の調査が  
行われたのみで、詳しいこと  
はまだ不明です。

**久留米城下町遺跡の調査**

平成元年に行われた三本松町遺跡の調査を始めとして、  
現在15地点の調査が行われています。

じふくまち  
**呉服町(第6次調査)**

現在の久留米市役所東側にあった町屋の跡です。ここでは、  
魚屋町との町境の石組み溝やたくさんのごみ穴などが見つ  
かっています。その中からは商売に関する木札や、家内安全  
などを願う内容が書かれた木のお守り札、魚の骨や貝殻、ス  
ッポンの骨など、城下町の人々の生活がうかがわれる資料が見つかっています。



犬を埋めた穴  
(飼い犬のお墓でしょうか?)





教会の跡



教会の推定復元模型

りょう がえ まち  
**両替町(第2次調査)**

平成3年に、現在の市役所の建設にともない行なわれた調査です。井戸、穴蔵、呉服町との町境の溝などの他、醸造用のカマドなど多数見つかっていますが、ここでは両替町に町屋ができる以前(田中氏が筑後を治めていた時代)の堀跡や池状遺構も発見され、さらにはキリシタン大名であった毛利氏の時代の教会と考えられる建物の跡や、毛利氏の家紋や十字架が浮き彫りされた瓦も見つかっています。

うお や まち つきしままち  
**魚屋町・築島町(第10・11・16次調査)**

魚屋町は呉服町の西側にあり、南北に延びる通りの両側に家が建ち並んでいた町です。平成7年に行われた第10・11次調査では、西側の築島町との町境の溝が見つかり、呉服町で見つかった町境の溝と合わせて、魚屋町は東西55mの幅であることがわかりました。また、低湿地であった築島町側をだんだんと埋め立てながら造成したようすや、魚屋町の屋敷割りもわかっています。

平成16年に行われた第16次調査では、埋めた甕を並べた遺構や、長方形に石を組んだ地下蔵と考えられる遺構がみつかっています。

た まち  
**田町(第9次調査)**

魚屋町の南にある町です。池町川は戦後の区画整理によって現在の流路となりました。ここではそれ以前の旧流路が検出されました。また、江戸時代中期以降にできた町屋跡からは、建物の基礎や井戸、土坑などが見つかり、その中から17世紀末以降の陶磁器の他に、オランダ製のパイプや西洋陶器の皿などが出土しました。



湿地に造った町境の石組み溝  
(基礎の構造は木を並べています)



江戸時代の池町川の護岸石垣を発見



ほんまち

### 本町(第5・13次調査)

現在の本町には江戸時代、久留米と柳川を結ぶ道路にそって原古賀町の町屋が建ち並んでいました。本町では、昔の原古賀四丁目にあたる場所で、平成6年度の第5次調査と10年度の第13次調査が行われ、ごみ穴などがたくさん見つかっています。

第13次調査では、城下町遺跡で初めて平安時代の穴もみつかっています。



「VOC」銘入り染付皿

こめやまち

### 米屋町(第14次調査)

平成12年に調査され、米屋町と三本松町の町境と考えられる溝や、町屋の境の溝、江戸時代の中頃と終わり頃に起こった火事の焼け跡や、その後片付けのために掘られた穴などがみつかっています。この穴からはオランダ東インド会社の「VOC」銘が描かれた皿が出土しました。本来は外国への輸出用であった有田焼の製品が、なぜ久留米へもたらされたかなどを考えると興味が尽きない出土品です。

さんぼんまつまち

### 三本松町(第1次調査)

平成元年に調査され、江戸時代の道路やそれに面した町屋の建物跡のほか、戦前の三本松通りや井戸などが良好な状態で見つかりました。



第1次調査の現地説明会のようす

それまで久留米では、度々区画整理が行われたことなどから、城下町の遺跡は残っていないと考えられていましたが、この調査によって地下に江戸時代の遺構が残っていることがわかり、以後は城下町や城内の発掘調査をすすめることで、久留米城下町の復元研究が深まるきっかけとなる貴重な成果が得られています。

とおり ちよう

### 通町(第3・4・7・8・12・15次調査)

久留米城下町を東西に走る道路にそって建設された町で、江戸時代には久留米城下町のメインストリートでした。この町は延享2年(1745)までは「長町」と呼ばれ、有馬氏が久留米藩主となった頃には四丁目までしかなかったと伝えられています。その後、城下町が大きくなるにつれて、通町も20年の歳月をかけて五丁目から十丁目まで広がっています。

通町では、平成6年度に六丁目(第3次)・七丁目(第4次)、平成7年度に九丁目(第7次)・四丁目(第8次)、平成9年度に十丁目(第12次)、平成13年度にも十丁目(第15次)と6回の調査が行われ、溝や井戸、ごみ穴などが多数みつかっていますが、狭い面積の調査が多く、町割りの様子などの詳しいことはまだ良くわかりません。



## 久留米城関連遺跡の調査一覧表

No.	年度	遺跡番号	遺跡名	地区・地点	遺跡略号	回数	調査期間		調査担当者
50	平成17年度	200527	久留米城外郭遺跡		LNG	010	20051128	20051228	水原
49	平成17年度	200526	京隈侍屋敷遺跡		LKG	006	20051124	20060111	大石
48	平成17年度	200512	櫛原侍屋敷遺跡		LKK	006	20050725	20050809	大石
47	平成17年度	200508	京隈侍屋敷遺跡		LKG	005	20050608	20050808	江島
46	平成17年度	200506	久留米城外郭遺跡		LNG	009	20050530	20050628	本田
45	平成16年度	200413	京隈侍屋敷遺跡		LKG	004	20040930	20041007	大石
44	平成16年度	200407	久留米城外郭遺跡		LNG	008	20040614	20040630	近澤
43	平成15年度	200320	城下町遺跡	魚屋・細工町	LKM	016	20031215	20040131	大石
42	平成15年度	200304	櫛原侍屋敷遺跡		LKK	005	20030507	20030522	近澤
41	平成14年度	200209	京隈侍屋敷遺跡		LKG	003	20020715	20020905	熊代
40	平成14年度	200201	久留米城外郭遺跡		LNG	007	20020418	20020712	近澤
39	平成13年度	200127	久留米城外郭遺跡		JNG	006	20020212	20020212	白木
38	平成13年度	200125	城下町遺跡	通十丁目	KJM	015	20011217	20020115	園井・大石
37	平成13年度	200120	庄島侍屋敷遺跡		SJS	006	20011001	20011026	白木
36	平成13年度	200119	庄島侍屋敷遺跡		SJS	005	20011005	20011005	大石・園井
35	平成13年度	200110	十間屋敷遺跡	日吉	JKY	001	20010601	20010601	大石・園井
34	平成13年度	200104	櫛原侍屋敷遺跡		KHS	004	20010423	20010618	近澤
33	平成12年度	200012	城下町遺跡	米屋町	KJM	014	20001002	20001209	園井
32	平成11年度	199914	櫛原侍屋敷遺跡		KHS	003	19990810	19991101	大石
31	平成11年度	199902	庄島侍屋敷遺跡		SJS	004	19990412	19990518	神保
30	平成10年度	199836	城下町遺跡	本町四丁目	KJM	013	19990329	19990407	小澤
29	平成10年度	199822	東野亭焼窯跡		TOY	001	19981014	19981228	大石
28	平成10年度	199804	櫛原侍屋敷遺跡		KHS	002	19980406	19980709	大石
27	平成9年度	199732	久留米城外郭遺跡		JNG	004	19971105	19971218	大石
26	平成9年度	199729	城下町遺跡	通十丁目	KJM	012	19971009	19971009	富永
25	平成9年度	199722	京隈侍屋敷遺跡	京隈小路	JKG	002	19970908	19970926	白木
24	平成9年度	199711	久留米城外郭遺跡	(確認)	JNG	005	19970515	19970515	富永
23	平成8年度	199623	城下町遺跡	魚屋町	KJM	011	19960925	19961121	園井
22	平成8年度	199616	久留米城外郭遺跡	(確認)	JNG	003	19960802	19960827	大石
21	平成8年度	199601	久留米城外郭遺跡		JNG	002	19960415	19960701	園井
20	平成7年度	199546	庄島侍屋敷遺跡	(立会)	SJS	002	19950719	19950724	古賀
19	平成7年度	199545	久留米城外郭遺跡	(確認)	JNG	00C	19950418	19950419	古賀
18	平成7年度	199536	京隈侍屋敷遺跡	京隈小路	KGS	001	19960216	19960305	古賀
17	平成7年度	199535	櫛原侍屋敷遺跡	櫛原四丁目	KHS	001	19960213	19960216	古賀
16	平成7年度	199533	城下町遺跡	魚屋町	KJM	010	19960207	19960610	水原
15	平成7年度	199516	城下町遺跡	田町	KJM	009	19950626	19950809	大石
14	平成7年度	199515	城下町遺跡	通四丁目	KJM	008	19950619	19950708	古賀
13	平成7年度	199503	城下町遺跡	通九丁目	KJM	007	19950419	19950519	富永
12	平成7年度	199501	城下町遺跡	呉服町	KJM	006	19950417	19950616	大石
11	平成6年度	199450	久留米城外郭遺跡	(立会)	JNG	00B	19941005	19941006	園井
10	平成6年度	199447	櫛原侍屋敷遺跡	(立会)	KHS	000	19940926	19940928	富永
9	平成6年度	199446	庄島侍屋敷遺跡	(立会)	SJS	001	19940414	19940415	富永
8	平成6年度	199445	城下町遺跡	本町四丁目	KJM	005	19940809	19940811	古賀
7	平成6年度	199444	城下町遺跡	通七丁目	KJM	004	19950313	19950328	園井
6	平成6年度	199431	城下町遺跡	通六丁目	KJM	003	19950223	19950224	古賀
5	平成6年度	199410	久留米城外郭遺跡	佐々木家	JNG	001	19940725	19940930	園井
4	平成3年度	199129	朝妻焼古窯跡群		ADK	001	19920127	19920304	櫻井・水原
3	平成3年度	199119	城下町遺跡	両替町	KJM	002	19910903	19921027	大石・古賀
2	平成2年度	199035	久留米城外郭遺跡	旧警察署	JNG	00A	19900903	19900906	大石
1	平成元年度	198911	城下町遺跡	三本松町	KJM	001	19890626	19890929	大石